

異文化と 心通わせ

(77)

村田 佳子

新年度が始まつてもうすぐ一ヶ月。新しい学校やクラブ、座席にも慣れてしまつたのでしょうか。「学校さ、行きだぐねー」。そんな風に言つてゐるお子さんもいるかも。おまけに「会社さ、行きだぐねー」という大人の声のほうが大きかつたりして…。

この連載の第20回「達成感と希望」でアフリカ・ルワンダから来日した稻の研究者イノセントさんは、白状するところを知つた。そんな出来事がありました。

「なると」「おなかが痛い…」とオフィスをよく訪ねてきた方の話です。そ



学校さ、行きだぐねー

実は、白状するところ私も中学校に入学する直前、「学校さ、行きだぐねー」と言つて両親の前で大泣きました。とがあります。幼稚園や小学校ではなく中学校です。もう12歳だったのに…。制服もかばんも全部そろつていたのに私の気持ちだけが後ろ向きでした。その理由は英語でした。

その10年後、私が外国に住んだり、英語を使つた仕事に就いたりするなんて、両親はきっと驚いたことでしょう。でも考えてみたら、もつと苦手なことはいくつもありました。数学も図工もお裁縫も。でもそれらを取り立てる「怖いよ」とか

「やりたくないよ」と

始まるひとりづくわくしでしたのですが、入学が近づくにつれ「みんな英語をすでに習って始めていたのか。上手になれないついていけなくなつた」。そう思い込み、怖くなつてしまつたのです。識に英語や海外の文化の通信教育や塾の話などを聞いたせいか何にも意欲と情熱があつた。そんな出来事がありました。

「〇〇が怖いよ」とわざわざ口にすることがあります。当時のことは父も母もよく覚えていて今でもあの時のこと笑います。その10年後、私は自分の英語がついてあの日の自分に会えるならワンワン泣く私に「英語、初めてだなんて、両親はきっと驚いたことでしょう。でも考えて話を聞いてみたい。できれば彼女の夢や情熱も。やる気や強い興味は恐れの奥に隠されているのではないかと思うので

春休みよりも少し前までは中学で英語の授業が

は騒がなかつた。英語だけに恐れを感じていた

(横浜市出身、コーチングシステム)